

ペースメーカー・ICD・CRT 実践ハンドブック

Kenneth A. Ellenbogen, Karoly Kaszala(編)

高野照夫, 加藤貴雄(監訳)

伊原 正(訳)

京都府立医科大学大学院教授・心臓血管外科学

夜久 均

ハートカンファレンスに挑む多職種の 知識補充に最適

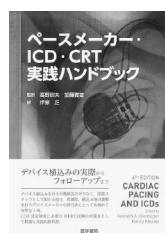
循環器疾患にはさまざまな病態があり、それに対するさまざまな治療がある。その中で中心を貫くキーワードは心不全であり、その病態解明、そして治療は循環器疾患に携わっている医療従事者にとって究極の目標となってくる。今回上梓された高野照夫先生、加藤貴雄先生、伊原正先生が翻訳された実践的なハンドブックがカバーしている、ペースメーカー・ICD・CRT はまさに心不全の治療の一環である。

そして、心不全の治療も含めて多くの循環器の治療の方針決定は、現在では内科医、外科医、リハビリテーション関連療法士、臨床工学士、看護師などの多職種が集まるいわゆるハートチームカンファレンスでなされることが、循環器治療のさまざまなガイドラインでクラス I のレベルで推奨されている。つまり、内科医、外科医が、目の前に現れた患者に自分たちのできる治療をとりあえず行うのではなく、多職種でカンファレンスを行うことにより、患者の人生の時間軸の中で、どのような治療をどの時点で介入させていくのかを、透明性を持った形で決定することが非常に重要となっている。

その場合、ハートチームカンファレンスが有効に機能するためには、全ての職種の者が、循環器

の治療の動向をある程度把握しておく必要がある。ペースメーカー・ICD・CRT の治療に関しても、実際に治療を施す医師はその分野に精通した専門医であるが、カンファレンスに参加する者は、非常に専門的ではなくても、ある程度その治療について知識を持つ必要がある。この書籍は、ペースメーカー・ICD・CRT に関して、まさに必要かつ十分な記載になっており、またその基礎となる原理的な内容も含まれており、非常に理解に役立つ。そういった意味で、ハートチームカンファレンスに臨むペースメーカー・ICD・CRT の専門家以外の職種の者が、ディスカッションに参加するための知識の補充にはうってつけの一冊かと思う。

ぜひ、循環器疾患の治療に携わっておられる多くの職種の方々が本書を手元に置かれ、より充実したハートチームカンファレンスの一助になることを期待する。



●B5/頁 544/2018 年
定価：本体 13,000 円＋税
[ISBN978-4-260-03599-6]
医学書院 刊